

---

# LUNA PIENA 序章

みやび

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

LUNA PIENA

序章

### 【Zコード】

Z3541M

### 【作者名】

みやび

### 【あらすじ】

戦乱から醒めて間もないアルスター大陸に、アカデミアという王国がある。ルーアと呼ばれる強力な特殊部隊を持ち、かつての戦乱で圧倒的な戦力を背景に領土を拡大した成長著しい国家である。

戦乱より以降、大陸の各地では魔物が出没し人間を襲い始めた。その体躯は見上げるほどに大きく、牙は岩さえも噛み砕き、爪は木々を紙切れのようになぎ倒す。各国は軍を魔物狩りに出動させるが、人間の砲火など魔物の鋼鉄の皮膚の前には児戯に等しく、逆に多くの兵士が生贊として捧げられる結果になつた。

唯一、魔物に対抗する力を持つのがアカデミアの特殊部隊、ルーアたちであった。各国はアカデミアに援軍を要請し、アカデミアは報酬として受取る資金力を元にさらに強力な軍隊を作り上げていく。ルーアの一人、グレイは、ある日の任務で美しい少女に出会う。各国の思惑が不穏に揺れ動く中を、戦士と少女は稻妻の如く駆け抜けていく。.

## プロローグ

満月が、中天に青く輝いている。周囲の星々は凍るほどに冷えた光を注ぎ、生命の声一つ聞こえぬ荒漠たる砂景色を照らしだしている。その大小入り混じった砂丘の一つの急斜面を、小さな黒い影が蛍もかくやといいうような速度で、よたよたと登っていた。暗雲が月と星を一瞬隠し、影の動きがふつと見えなくなつたが、再び空が晴れると、その姿が月の光にぼうつと映し出された。

年端もいかぬ、少女である。埃にまみれた外套に身をまとい、所々に穴のあいたブーツで滑りやすい砂の丘を喘ぎ喘ぎに登っていた。ほとんど何の荷も入っていないのだろう、薄汚れ茶色く変色した背嚢はペしやりと潰れたまま腰の辺りでゆらゆらとゆれている。だが、時折外套からのぞく顔は汚れてはいてもどこか気品があり、髪は月の光と同じに美しく輝いていた。

一陣の強い風が吹く。砂が目に入らぬよう顔をそむけ、外套で赤く擦り切れそうな顔を覆う。砂漠の夜は極寒である。白くかじかむ指先を擦り続けながら、虫一匹の気配すらない大地をなお踏み締めていく。

なぜ年端もいかぬ少女が一人、夜通し過酷な砂漠を旅しているのかは、もとより誰の知るところでもない。しかし少女の目は常にはない、狂人のような尋常ならざる光を放つていて。

夜が明けても、少女は一睡もせずに歩き続けていた。むしろ、太陽に気付いていないかのようだ。延々と続く丘が日に染まり、細かい砂が光を反射して、金色とも赤色ともつかぬ輝きを放つても、その歩みは微塵にも乱れない。

夜は氷点下まで下がる砂漠の気候も、昼間になれば真夏のような炎暑にさらされる。灼熱の太陽がじりじりと照りつけ、砂の熱がすり

減った靴を通じて指先を焼いて、少女は初めて喉に絡みつく強烈な渴きに気づいた。背嚢から真鍮の水筒を取り出して口へ持っていくが、既に水の一滴も残っていない。周囲を見回しても、オアシスはおろか身を横たえるような岩場もなかつた。からうじて丘のふもとに、背の低い丸々とした緑色の多肉植物が一、三本自生しているのを見つけて、駆け降りた。

全身を短く鋭い針で覆つた、ベレロというサボテンの一種である。いかにも水分を多く含んでいるように見えるが、多少旅慣れた者ならこの植物から水を取ろうなどとはとても思わない。その体液には、わずかではあるが麻痺性の毒が流れていることを知っているからである。しかし、幼い少女にはそういう知識も、警戒心もなかつた。針で容易には触れられそうもない植物の肌を、素手で切り裂こうとする。短い針が掌に刺さるのを気にもせず、爪を立ててがりがりと表皮をはがすと、白い液体がにじんできた。口をつけると苦みと食物纖維の臭みが口に広がつて、思わず吐き気を覚える。我慢してしばらくそうしていたが、やがて液体は止まり、吸いついても何も出てこなくなつた。じつとしていると余計に喉が渴くので、仕方なく口を放して名残惜しそうにその場を立ち去る。両手が赤く染まつていることに気付いても、うめき声一つ上げない。

半時も歩くと、再び猛烈な渴きが襲つてくる。頭はじんじんと痛み出し、呼吸も喘ぎ喘ぎ、熱のこもつた息を吐くのみである。毒も効いてきたのであらう。ふらふらと歩みはぶれ、横に揺れながら千鳥足になつた。

少女は幻影を見ていた。目の前に、はるか遠き町が見えている。白色の城壁に囲まれ、地平線まで続いているよつた、莊厳なる城とその城下町である。

少女は手を伸ばした。ふつと、幻影は消えてしまう。伸ばした手をなお失われた夢を求めるよつて、一度開いて、少女の視界は闇に消えた。

## プロローグ（後書き）

今回はプロローグだけ投稿しました。

現在執筆中なのですが、何かと忙しいため遅筆気味です。  
どのくらいのボリュームになるかはまだわかりませんが、  
「面白そう！」と思っていただけた方も、「つまらん」という方も、  
一言コメントいただけましたら幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3541m/>

---

LUNA PIENA 序章

2010年10月9日04時39分発行